

京浜 3 港が連携したコンテナバージ輸送の試験運用を実施 ～「持続可能な物流」の実現に向け、オペレーション課題を検証～

横浜川崎国際港湾株式会社は、京浜 3 港（東京港・横浜港・川崎港）の連携を強化し、コンテナバージの活用による物流の効率化や環境負荷低減を目指す取り組みの一環として、空コンテナ輸送の試験運用を実施いたします。

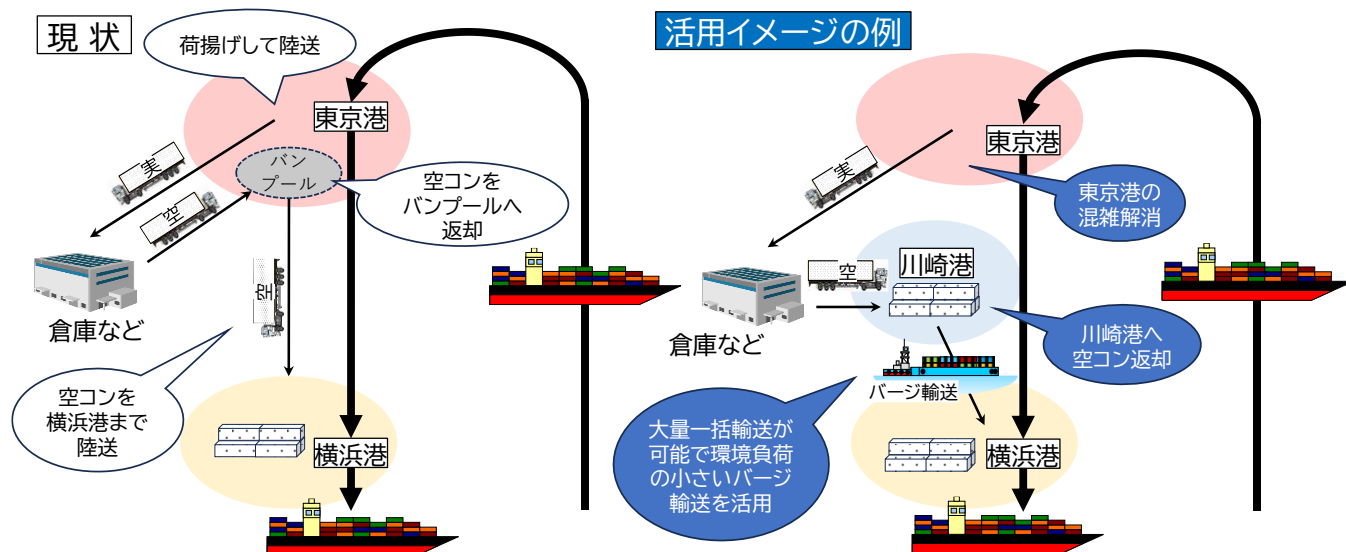
コンテナバージ輸送については、令和 6 年 2 月に国土交通省より公表された「新しい国際コンテナ戦略港湾政策の進め方検討委員会 最終とりまとめ」において、トラックドライバー不足や 2024 年問題を踏まえた更なる活用の推進や、川崎港における東京港や横浜港との接続性向上を目指して取り組むべき施策として示されています。

現在、東京港で輸入されたコンテナの一部は、荷下ろし後に陸路で東京のバンブルへ返却され、その後、再び東京から横浜港へ陸路で輸送されており、港湾周辺の混雑や 2024 年問題を背景にしたドライバー不足、環境への負荷などが課題となっています。このため、京浜 3 港が連携し、コンテナバージ輸送の活用を目指して取り組むことと致しました。

本取組ではコンテナバージの活用に向け、実務オペレーション上の課題を検証します。2 月下旬から、従来東京港で輸入され横浜港へ陸送されていた空コンテナの川崎港コンテナターミナルへの回送を開始し、3 月中旬頃にその空コンテナを横浜港南本牧コンテナターミナルへコンテナバージにて輸送を行い、各種オペレーション上の課題に加え、陸送からコンテナバージ輸送への切り替え時における情報連携や手続き、契約方式や費用負担のあり方等実務的な課題の検証を行うこととしています。

京浜 3 港が連携することで、京浜港全体の国際競争力強化と物流の持続可能性を追求し、カーボンニュートラルポート形成への貢献に加え、ドライバーの労働環境改善や、災害時の代替輸送路確保など、多角的な視点からコンテナバージ輸送を活用した有効な施策を、引き続き検討してまいります。

○ コンテナバージ輸送の活用イメージ



お問合せ先

横浜川崎国際港湾株式会社 企画部 企画課長 清水 真行 Tel 045-680-6582